

マラウイにおける農村金融の比較考察 SACAとMMF の事例

著者	星野 明彦
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アフリカレポート
発行年	1996-09
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00008464

マラウイにおける農村金融の 比較考察

SACAとMMFの事例

星野明彦

はじめに

マラウイ経済は国際収支（経常収支）の赤字，財政赤字および対外累積債務が過重で，きわめて困難な状況に陥っている。近年は干ばつが国民経済の基幹部門である小農に甚大な被害を与え，国民経済の基盤を揺るがしている。

特に小農層を中心とする貧困層は，さまざまな外的環境変化による影響を強く被ってきた。言うまでもなくこれはマラウイの小農の生産システムの，狭小な耕作面積，農業投入財の利用率の低さなどの問題点と密接に関係している。

農村の貧困問題を解決するためには，小農の生産性向上が求められており，その一つ的手段として農村金融の役割が期待されている。本稿では，マラウイの農村金融の二つの事例を取り上げ，農村の貧困問題解決の観点から現状分析及今後のあり方を検討する。まずは，政府系農業信用機関でグループ担保制を用いている小農農業信用局（SACA：Smallholder Agricultural Credit Administration）を取り上げ，次に，グラミンバンクのアフリカにおける初のモデル移転事例であるマラウ

イ農村基金（MMF：Malawi Mudzi Fund）に焦点を当てる。

1 マラウイの農業と貧困問題

マラウイの1人当りGNPは210ドル（1992年）で，低所得国平均をも下回っている。農業はGDPの30.2%を占めて最大部門となっており，総輸出額に占める農産品の割合は88.5%ときわめて大きい（94年）。また，総労働人口に占める農業部門の割合は77.2%と高い。国民経済は農業セクターに大きく依存している。マラウイの小農部門は農業生産の68.5%を産出しており，GDPに占める比率は21.8%で最大の部門である。しかし，最近の低成長により小農のGDPシェアは急速に落ちてきており，商業農家との所得格差が拡大しつつある。80年から92年までの農業生産の年平均成長率は商業農家の5.6%に対して，小農はわずか0.7%と低い水準にとどまった。

マラウイは，耕地面積が狭小で人口増加率が高いため，土地に対する人口圧力がきわめて高い。このため，農業従事者1人当りの耕作地面積は1965年の0.54haから，88年には0.38haと減少してきた。

これは1世帯当りの農業生産低下をもたらし、貧困の拡大の原因の一つとみられている。

マラウイの総人口の86%が農村人口で、農村人口の85%が小農である。農村における貧困人口の割合は56%に達している。また、全農村世帯の30%が女性戸主世帯である。女性戸主世帯では農地面積が小さい上、働き手が少ないため、農業生産および所得水準は低い。農業投入財を購入するための資金の不足、金融へのアクセスがないことが生産・所得向上のネックとなっている。

このような農村の貧困問題に対して、農村金融は一定の役割を果たし得る。耕作面積の小さい層への貸付は、非農業分野での経済活動を促進し、所得向上を可能にする。専業農家においては、新たな投入財の利用による農業生産増大、それによる所得増加が期待できる。

2 SACAによる小農向け融資

SACA融資の目的は小農の生産性を向上させ、マラウイの食糧供給を安定化させ、食糧自給に結びつけることである。SACA融資は、季節融資と中期融資とに分けられ、前者は消耗資材購入用の融資で、後者は耐久資材購入用の融資である。貸付利率は季節融資のグループ貸付で年利12%となっている。担保の代わりに「100%返済義務」（融資を100%返済しないと次の融資を受けることができないという規則）に基づく連帯保証制が取り入れられている。

連帯保証制の基本となるのが、10名から30名の農民によって結成される「クラブ」というグループである。これが融資の供与・返済および農業普及活動の受け皿となる。参加メンバーは、まず融資を受ける際に融資額の10%の保証金、および1%の手数料を支払わなければならない。そして、

「100%返済義務」があるため、クラブ内の1人でも滞納者がある場合、そのクラブのすべてのメンバーが融資を受けられなくなる。「クラブ」を核とした連帯保証制がメンバーの返済を促進し滞納を防ぐと同時に、「クラブ」が貸付側の事務手続きや集金業務を代行することによって、貸付コストを削減している。

SACA融資は現物供与が主である。SACAが供与する融資は、まず農業投入財を独占的に扱っている農業開発流通公社（ADMARC：Agricultural Development and Marketing Corporation）に入り、借り手は農業投入財を受け取るという供与方式であった。したがって、農業投入財を利用して高い農業生産性を保つためには、SACA融資を継続して受ける必要がある。このように投入財へのアクセスが融資の有無に依存していたことが、メンバーに完全返済を促し、融資の返済率を高めた。

さらに、農業普及活動と融資が一体で実施されてきたことは、貸付側と借入側を生産現場において結びつかせ、両者の間の情報のギャップを減少させた。この結果貸付審査がより効果的・効率的に実施されることになり、返済率の向上に結びついた。

上記のようなシステムがうまく機能したため、返済率は高水準で推移し、特に1973年から79年までの間では99%以上を記録した。前述の現物供与方式による融資、農業普及サービスとの連携、グループ担保制度の3点が、返済率の高位安定をもたらした。

しかし、返済率は1991/92年度に急激に低下し21%を記録した。この原因は大干ばつにあると考えられている。その翌年、92/93年度にも、返済率はさらに低下し13%となった。この年の返済率悪化の原因は、同国初の国民投票（複数政党制の導入の是非を問うもので、93年6月に実施された）の前に行

なわれた選挙キャンペーンにあるとされている。その内容は「今年度の融資は前年の干ばつ救済援助の一部であるため、返済義務はなくなる」というものであったが、実際には何の根拠もなかった。これは、SACAが農業省内の一組織であって、組織の自立性・独立性が確保されていなかったことが強く関連している。その他、86/87年度から100%返済義務が80%に緩められたこと、融資額の急増にSACAの運営体制が追いつかなかったことなどが返済率悪化の背景としてあげられよう。

1988年の全小農に対するSACA季節融資の供与率は、23%できわめて低かった。この主な原因は原資不足である。SACAは財務運営面で政府財政支出に依存していたため、積極的に貸付原資をふやすという動機が弱く、貯蓄を動員することができなかった。

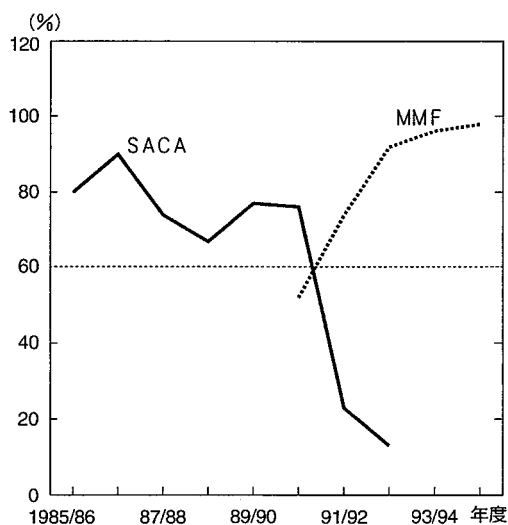
SACAのグループ融資制度がマラウイという国の社会経済環境下で一定の機能を受け持ち、ある時期まで高い返済率を維持してきたことは十分評価できる。しかし、貯蓄を動員し資金規模を拡大し、より多数の小農に資金を供給するという役割は果たせなかった。

3 マラウイ農村基金 (MMF)

MMFの目的は、最貧困層に連帯保証制による小口資金の貸付を行ない、貧困層の非農業活動を促進し、生活水準を向上させることである。特に女性のエンパワーメント（社会参画能力の向上）も重要目標である。

その信用供与手法ならびに運営手法は、バングラデシュのグラミン銀行で行なわれている連帯保証制小口融資方式と基本的に同一であるが、アフリカの社会・経済環境に適応させるために若干の

SACAとMMFの返済率



違いが生じている。

融資は一般融資と農業補完融資に分けられる。前者は非農業分野での営利活動を対象とするもので、融資額は初回は500クワチャ（1クワチャ=約6円）で、完済する度に徐々に拡大され、最高限度額は4000クワチャである。後者は自家消費目的の農作物生産に利用が限定されており補助的な融資である。年利は18.5%で、返済回数は13回均等払いである。2週間に1度、グループ集会が開かれ、そこで返済がなされる。また、集会の際には2クワチャの積立が義務づけられている。

MMFの制度的特徴の一つが連帯保証制である。これはメンバー間の相互監視を促し、「100%返済義務」が返済のインセンティブを一層高める。第2に、職員が村を巡回する「移動バンキング」は、借り手側の取引費用となる移動コストを削減する。第3に、定期返済方式はメンバーにとってわかりやすいため返済を確実にする。さらに、職員とメンバーが定期的に接触することは、相互の信頼を高め情報のギャップを小さくする。

メンバー数に関しては、2年目にメンバー数が激減したものの、その後は堅調な伸びを見せてきた。1991/92年度の170名から、94/95年度には847名に増加した。男性メンバーの返済率が悪かったため、3年目からは男性は除外されている。

融資額は、1991/92年度の3万3114クワチャから、94/95年度には48万4302クワチャと順調に伸びた。貯蓄額も、90/91年度の8714クワチャから、94/95年度は7万5914クワチャと伸びてきた。融資活動の質を示す指標である返済率も順調に伸び、91/92年度にSACAを上回り、その後、差を徐々に広げてきた。前述したように、91/92年度にSACAの返済率が低下した原因は大干ばつであるとされているが、同年のMMFはその影響を受けず、逆に返済率を伸ばした(図参照)。これは、MMFの融資活動が非農業分野を主体にしていたことと、MMFの融資制度・グループ組織がSACAよりも強固であり厳格であったことによると考えられる。MMFだけが持つ要素としては、少人数のグループ組織、定期返済方式、徹底したモニタリングである。MMFの組織・制度の強靭さは、92/93年度にSACAが政治的宣伝の影響を受けて返済率をさらに落とした一方で、MMFが全く影響を受けなかったことから明らかである。

MMFの返済率は、SACA以外の貸付機関と比べてもはるかに良い。例えば、政府系貸付機関の中小企業開発機関(SEDOM: Small Enterprise Development Organization of Malawi)の1991年の返済率54%とも全く比較にならない。経済システムの中で最も弱い存在である貧困層への貸付が、中高所得階層に対する貸付よりも優良であることは、

注目に値する。

おわりに

従来の農村金融部門では、小農・貧困層に対する貸付はリスクが高いとされてきた。しかし、マラウイのSACAでは、連帯保証制を取ることによって返済率を高く維持できた。小農(貧困層)に対する貸付であっても、連帯保証制や小口貸付などのような制度的仕組みを整えるならば高い返済率を維持することができる。しかし、SACAの運営組織は農業省を頂点とする国の行政システムに組み込まれていたため、独立性が小さくさまざまな政治的な影響を受け、その業績は悪化した。

MMFは、従来融資対象から除外されてきた貧困層に対して連帯保証制による小口融資を行ない、非常に高い返済率を記録してきた。この高い業績の要因としては、少人数の連帯保証制を採用したことが大きい。また、定期返済方式は、MMF職員とメンバーとの間の情報のギャップをなくし、親近感を醸成してメンバーの返済を確実にするという面できわめて効果的であった。

連帯保証制は、農村小口金融のパフォーマンスを高めるための大きな要素であるが、それだけでは十分ではない。その他の重要な要素としては、組織の自立性や独立性があげられる。また、干ばつのような外生ショックが返済率を悪化させることに関しては、融資対象分野の多様化、または、組織の全国展開によりリスクを分散することが今後は有効となってくるであろう。

(ほしの・あきひこ/国際協力事業団)